

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

1. 対象 特別支援学校 小学部1年（2人）

これまでの国語の学習では、学習指導要領国語科の小学部1段階を中心に取り組んできた。前单元「おきなかぶ」では、絵本『おきなかぶ』の読み聞かせを通し、セリフ「うんとしょ、どっこいしょ。」を教師と一緒に言ったり、かぶのペープサートを実際に持って引っ張る動作を真似たりする活動に取り組んだ。活動の中で、2人とも繰り返しの展開を気に入り、最後まで本を注視する姿が見られた。学習を通し、児童Aは、セリフや動作を真似るだけでなく、登場する人物や動物を正しい名称で言ったり、イラストを見て登場人物の様子に注目したようになってきた。生活の中でも、教師とごく簡単なやりとり遊びが少しずつ見られるようになってきている。児童Bは登場する人物や動物の名称は部分的な理解に留まるものの、模倣遊びの中で繰り返し登場するセリフや動作は理解し、自信を持って言ったり真似たりすることができるようになった。どちらの児童も、読み聞かせや言葉を使った活動を通してたくさんの言葉に触れる中で、身近なものや名前を正しく覚えて言ったり、言葉を使って表現する楽しさを感じたりすることで、主体的に言葉を使おうとする態度や習慣を身に付けたい段階であると考えている。

2. 单元名 「ぐるぐる ○○○○（せんたく/ジュース）」（全10時間）

3. 单元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・衣服や果物等のイラストを見て、正しい名称を言葉で答えたり、教師の言葉を聞いて正しいイラストを選んだりすることができる。
思考力、判断力、表現力等	・洗濯やジュース作りの模倣遊びの中で、関連する動作や場面を、擬音語や擬態語などを使いながら表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	・様々な動作や場面を擬態語や擬音語を使いながら表現したり、教師や友達と言葉を介して関わったりすることを楽しみ、自分から言葉を言おうとする。

4. 授業展開【 本時 ・ 单元 】

解決したい課題や問い

- 『ぐるぐる洗濯機で 洗濯をしよう!』『ぐるぐるミキサーで ジュースを作ろう』
- ・洗濯機に洗濯物を（ミキサーに果物を）「ぽん。」と入れて、「ぐるぐる。」と回って、「ピタッ。」と止まろう。
 - ・今日の洗濯物/ジュースのレシピは何か？（シャツ、ズボン、靴下、帽子、りんご、みかん、バナナなど）
 - ・洗濯物を干そう。どんな言葉を使うのかな。（「パンパン。」「ピカピカ。」など）
 - ・乾杯して、ジュースを飲もう。（「乾杯。」「ごくごく。」など）

考えるための材料

絵本『ぐるぐるせんたく/ぐるぐるジュース』	衣服や果物等のイラスト	大きな洗濯機やミキサーに見立てたフラフープ	物干し竿の模型やコップ
想定される活動			
・擬音語や擬態語に合わせて絵本を動かしたり、登場する動作を手の動きで真似たりする。	・教師の「これは何でしょう。」などの問いかけに、身近な衣服や果物などの名称を声に出して答える。	・友達や教師と一緒にフラフープを持ち、「ぐるぐる。」などの擬態語に合わせて動かす。	・「パンパン。」「ごくごく。」などの言葉を使いながら洗濯物を干したり、ジュースを飲んだりする。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・児童2人と教師2人で行う活動である。T1は読み聞かせをしたり、イラスト等を示しながら発問したりする。T2は主に児童BがT1の提示や発問に注目できるよう支援しながら、T1が拾いきれなかった児童の言葉や動作をフィードバックし伝えていく。読み聞かせが5分程度、模倣遊びが15分の計20分で計画する。児童A、B共に突発的な飛び出しがあるため、席を離れて学習する際は注意する。

【対話の方法】

- ・絵本『ぐるぐるせんたく（ジュース）』を読み聞かせる。擬態語や擬音語と動作に注目できるように読み聞かせたり、児童の目の前に絵本を提示し、洗濯機やミキサーに物を入れたり回したりする動作の模倣を促したりする。
- ・「今日の洗濯物（ジュースのレシピ）」として、児童にとって身近な衣服類のイラストを1枚ずつ提示する。「これは何でしょう。」と教師が問い掛け児童が名称を言ったり、教師が「靴下はどこに行ったの？」などと問いかけ、児童が複数のイラストの中から正しいものを見つけて取ったりする。児童Aは、平仮名で示された事物の名前を読み、イラストを正しく一致させる活動も併せて行う。
- ・教師や友達と一緒に洗濯機やミキサー（フラフープ）を持ち、「ぐるぐる。」「ピタッ。」などの擬態語を使いながら回したり止めたりする。衣服を干す時に「パンパン。」（洗濯物を伸ばす音）を言ったり、ジュースを飲む時に「ごくごく。」と言うなど、擬音語や擬態語などを使いながら、模倣遊びをする。
- ・洗濯機やミキサー回す活動の中で、「速い。」「もう1回。」などの児童が感じたことを言葉で表現しようとした時には、教師が正しい言葉を使ってフィードバックしたり、取り組む回数を柔軟に調整したりする。

【思考のプロセス】

- ・絵本『ぐるぐるせんたく（ジュース）』の話が楽しいな。「ぼん。」「ぐるぐる。」「ピタッ。」が楽しいな。
- ・洗濯物には何があるのかな。帽子は知っているよ。この服はTシャツって言うんだな。
上手く言えないけど、先生と一緒に言ってみようかな。上手に言えて褒められてうれしいな。
- ・大きい洗濯機やミキサーを持って、みんなでぐるぐる回すと楽しいな。「ぐるぐる。」ってたくさん言っていると、みんながたくさん回してくれる。先生はいつ「ピタッ。」って言うのかな。僕が「ピタッ。」を言ってみようかな。
- ・洗濯物を干したら、ピカピカの服がいっぱい並んできれいだな。先生が、「パンパン。」と言いながら服を叩いて干していたよ。僕もやってみよう。洗濯って楽しいな。洗濯のこと、僕知っているよ。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・衣服や果物の名前を言ったり、イラストの中から正しい物を選んだりできる。
- ・教師が言った擬態語を聞き、「ぐるぐる。」で洗濯機を回したり、「ピタッ。」で止まったりすることができる。
- ・自分から「ぐるぐる。」「ピタッ。」などの擬態語を言い、応じた動作をする。
- ・「速い。」「もう1回。」など、活動の中で児童が感じたことを言葉で伝えようとする。
- ・「パンパン。」「ごくごく。」教師の言葉や動作を真似ながら、洗濯やジュース作りの場面を言葉で表現したりする。